

180 分娩性低カルシウム血症（乳熱、産前・産後起立不能症）

担当	検査チャート			
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --- J1(()) B["(2) 臨床検査"] --- J1 J1 --- C["(3) 診断的治療"] J1 --- D["(4) 血液生化学検査 (血清、血漿)"] C --- E["(治癒)"] C --- F["(非治癒)"] D --- G["(+)", "(-)"] E --> H["(+)", "(-)"] F --> H G --> H </pre>			
病性鑑定施設				
判定・結果	(+)	(-)	(+)	(-)
最終判定	判定は総合的に判断する。			
その他				

→類似疾病検査

- ① 181 ケトーシス ② 179 低マグネシウム血症 ③ 骨折、脱臼、筋損傷 ④ ダウナー症候群

(1) 疫学調査

- ① 分娩後おおむね 48 時間以内に発症する。
② 乾乳期のリンとカルシウムの比率が不均衡な場合に多発する。
③ 経産牛(特に3産以上)に多発する。
④ 高泌乳牛に多発する。

(2) 臨床検査

(初期)

- ① 食欲不振
② 麻痺、起立不能
③ 興奮、四肢筋肉の痙攣、歯軋り、歩様踳踉

(伏臥期～昏睡期)

- ① 意識障害と混濁、犬座姿勢、瞳孔散大
② 体温・皮温の低下
③ 頸を横に曲げ頭部を腹部に傾斜
④ 昏睡状態、弛緩性麻痺
⑤ 呼吸促迫、チアノーゼ

(3) 血液生化学検査

(治療前に採血した血液を用いる。)

- ① 血清カルシウム濃度の測定:7.0mg/dl 以下に低下(5.0mg/dl 以下で神経症状が多発)
② 血清無機リン濃度の測定:低下
③ 血糖の測定:上昇することがある。
④ 血清 AST 活性の測定:上昇

(4) 診断的治療

カルシウム剤の静脈内投与